

肝外胆管癌進展範囲に伴うリンパ節転移好発部位の差異の検討

1. 研究の対象

1992年1月から2014年12月までに、国立がん研究センター東病院で胆管がんに対して膵頭十二指腸切除術を受けた94人の患者さんの診療録、画像データ、病理組織検査の結果を対象とします。

2. 研究の概要

胆管がんの治療においては、転移が予想されるリンパ節を病変部とともにしっかりと郭清する（手術時に一緒とってくる）事が非常に重要になります。しかし、病変部（がんのある部分）が胆管にそって肝臓側に伸びていくとどの部位にリンパ節転移をきたしやすいのか、また逆に十二指腸側にのびていくとどの部位にリンパ節転移をきたしやすいのか分かっていません。そのため、本研究では胆管がんの胆管に沿った広がり切除標本上（手術時に切り取られた胆管組織上）でしっかりとマッピングし、それぞれの症例でどこのリンパ節に転移しやすいのかを検討します。

3. 研究の意義と目的

胆管がんのどこからどこまで広がっているのかという事とリンパ節転移の好発部位との相関関係を明らかにすることより、重点的に郭清（手術時に一緒とってくる）を行うべき部位が明らかになれば、そうした部位のリンパ節郭清を重点的に行えば、再発を抑えられたり、長生きできることにつながります。また、腫瘍の部位によって、リンパ節転移を起こしにくい部位が明らかになれば、不要な部位のリンパ節郭清を省くことができ、手術時に体にかかる負担を軽減することができます。また、胆管だけをとるような縮小手術の実現可能になるかもしれません。

4. 方法

1992年1月から2014年12月までに、国立がん研究センター東病院で胆管がんに対する治療として膵頭十二指腸切除術を受けた94人の方々患者さんの診療録、画像データ、病理組織学的所見を再度検討します。情報収集の作業に当たっては医師がこれを行います。

5. 個人情報保護に関する配慮

閲覧する診療録等には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されな

い方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、研究登録時に発行される登録番号、生年月日、カルテ番号を使って管理するため、患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。また患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録及び画像データは研究に利用しないようにしますのでいつでも下記まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科 加藤 祐一郎

TEL 04-7133-1111 / FAX 04-7131-4724